

2021年度「神奈川大学日本語・日本文化プログラム」(冬季)で伝統芸能「能・狂言」を体験しました

【内容】

2月9日(水)16時より、神奈川大学みなとみらいキャンパス1階グローバルラウンジにて、海外の本プログラム参加者が日本文化を体験する目的で、能・狂言の講義および実演をオンラインで行いました。みなとみらいキャンパス近隣の横浜能楽堂より大瀧講師と近藤講師を招き、能楽および能楽堂の舞台などについて解説をしていただきました。横浜能楽堂ホームページの「バーチャル能楽堂案内」を見ながら能舞台の仕組みや特徴を詳しく説明していただき、また代表的な狂言「柿山伏」の動画を視聴し、能楽の歴史や特徴について海外の参加者にもわかりやすく解説をしていただきました。最後に能楽体験として、結婚式などおめでたい場で謡われる「高砂」を参加者全員で抑揚をつけて謡いました。

今回の企画は神奈川大学社会連携センターとの連携事業でご協力いただいている横浜市芸術文化振興財団より横浜能楽堂をご紹介いただき、実現しました。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い日本語・日本文化プログラムもオンラインで実施していますが、今後同プログラム参加者が来日でき、対面でプログラムが実施される際には、実際に横浜能楽堂を見学できることを楽しみにしています。



横浜能楽堂の歴史 HISTORY OF YOKOHAMA NOH THEATER



- 1875年、旧加賀藩主・前田齊泰の隠居所に建つ
Built on site of retreat of former Lord of Kaga Domain, MAEDA Nariyasu
- 1919年、旧高松藩主・松平頼寿邸に移築
Moved and rebuilt on site of residence of former Lord of Takamatsu Domain, MATSUDAIRA Yorinaga
- 1965年、解体 Demolished
- 1996年、横浜能楽堂として復原
Restored as the Yokohama Noh Theater



横浜能楽堂の近藤講師による能楽堂および能楽の解説



たかさごや このうらぶねに ほをあげてーてー
TA KA SA GO YA KO NO U RA BU NE NI HO O A GE TE
(From Takasago in this boat we have set sail
このうらぶねに ほをあげて つきもろともに
KO NO U RA BU NE NI HO O A GE TE TSU KI MO RO TO MO NI
in this boat we have set sail with the moon above us
いでしおの なみのあわじのしまかげや
I DE SHI O NO NA MI NO A WA JI NO SHI MA KA GE YA
at high tide through the foamy waves Awaji Island we passed

横浜能楽堂の大瀧講師による謡い「高砂」の実演と参加者による体験